
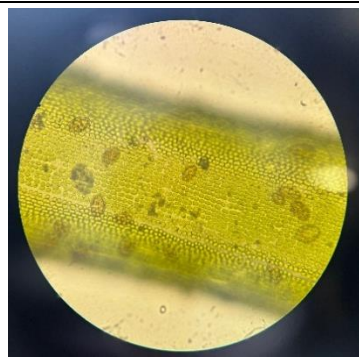




日々の田高

(放課後の生命たち -小さな世界は、まだ授業中- 「様々な細胞の観察」)

6月1日・2日の2日間、理数研究拠点校の放課後の生物のプログラムとして、細胞の観察を行いました。1日には5名、2日には15名がこちらのプログラムに参加しました。

細胞の観察のメインテーマは、シャジクモを使用して原形質流動を観察しよう、というものです。シャジクモは、淡水に生息する藻類であり、陸上植物の祖先です。原形質流動は、細胞内の物質の輸送に伴って、細胞内の物質が移動する現象です。原形質流動を観察・スケッチしたのち、ミドリムシやゾウリムシの観察を行いました。

	
シャジクモ	シャジクモの原形質流動（顕微鏡写真）
	
6月1日 顕微鏡観察の様子	6月2日 顕微鏡観察の様子

実習後、生徒からは、「原形質流動という言葉は知っていたけど、あんまりじっくり来てなかったので実際に体験してみることが一番学習になると感じました。」「想像以上に流動している様子が綺麗に見られて感動しました。これかも参加したいです。」など、科学への興味の声が聞かれました。3年生が1年生に教えている様子や、他クラスの生徒どうして相談しながら観察している様子が見られました。

今回の経験を通して、自身の興味・疑問も含めて、学問を探究することは面白いことであると気づいてもらえると嬉しいです。身近な生物の観察から始めて、原理・現象の理解につなげていくとより生物は楽しいと感じられると思います。科学は日常生活のあらゆるところに存在しています。授業で学んだこととのつながりを見つけて、今後の実習や探究で理解を深め、学習に対する意欲の向上に生かされていくことを期待しています。